

全学学類・専門学群代表者会議 第一回本会議 議事内容報告書

作成者： 十川 澄 ・ 猪瀬 百合子

【日時】 2018年4月25日（水）

【場所】 5C216

【出席】 全体 75 定足 50 出席 52 遅刻 0 早退 3

【資料確認】

- |       |                                   |
|-------|-----------------------------------|
| 18001 | 議事次第                              |
| 18002 | 2018年度議長団選挙に関して                   |
| 18003 | 学長決定「筑波大学の学生組織について」               |
| 18004 | 副学長決定「筑波大学における学生の組織及びクラス連絡会等について」 |

【会議内容】

- |  |
|--|
| 今回の第一回本会議では以下の議題を扱った。<br>議題① 2018年度議長団選挙に関して<担当：平成29年度議長団><br>以上 |
|--|

《議題①・2018年度議長団選挙に関して》

○前議長・鈴見が説明を行った。

本日の議題は2018年度議長団選挙についてである。18002を開いてほしい。18003、18004にそれぞれ学則が2種類、全代会に関係あるものを書いてあるので、それらを参考にしながら議長団選挙について説明していきたいと思う。学長決定と副学長決定に基づき、以下の手順で行う。まず議長選挙を行い、そのあと副議長2人を選ぶ。まず立候補してもらい、そのあと演説、質疑応答を行う。立候補者が1人であった場合は信任投票という形にして行う。立候補者が2人以上いた場合は通常の投票により選挙を行う。過半数以上の票を得られた人が議長として選出される。過半数以上の得票者が2人以上出た場合、決選投票を行う。3人以上いた場合は上位2人で決選投票を行う。議長が決まらなかった場合は会議を終了する。

副議長選挙について説明する。資料の1-3までは議長選挙を同様である。立候補者が1人、または2人だけの場合、信任投票という形で投票を行う。3人以上いた場合は一回の投票で1人のみ選出する。3人以上いた場合はその時に詳しく説明する。

信任投票と白票について説明する。信任投票の際は信任・不信任・保留のいずれかを選ぶ。信任が半数以上の場合選出される。不信任が過半数いた場合は今年度の議長団選挙には立候補できない。不信任というのは「この人はダメ」というもので、保留というのは信任・不信任の判断がつかないというものである。保留にした場合、後日信任・不

信任を聞くということはない。保留が過半数いても、そのあと立候補することは可能である。記入ミスや白紙などは無効票となる。○以外を記入したのも無効票となる。ただし出席人数には数える。そのほか進めていく際質問などがあった場合は本日の司会進行である鈴見が適宜指示を行う。

本日の流れを説明する。今から議題①の選挙を行い、そのあと手短かに委員会説明会を行う。その後その他諸連絡を行う。最後に写真撮影を行う。それでは選挙に移る。前に座っている2人は立候補者ではないので注意すること。この2人は監察役であり、正當に選挙を行うための選挙管理委員のような立ち位置である。左が去年の総務委員長の太田で、右が去年の教育環境委員会の委員長である。

#### ○石川

学類に各1枚ずつ名簿が配られているが、それは今のところ総務委員会が把握している座長団の名簿と委員会配属の決定である。各テーブルで回して見てほしい。

#### ○鈴見

それでは選挙を始める。発言する際は挙手すること。指名されたら学類と名前を言うことから発言すること。退出する際は報告すること。議長立候補者は15分で演説を行うこと。それでは立候補者を募る。平成30年度全大会議長に立候補する方がいれば挙手してほしい。立候補を締め切る。知識情報図書館学類2年の四家、前に出ること。それでは演説を始めなさい。

#### ○議長立候補者・四家が演説を行った。

平成30年度全大会議長に立候補した、知識情報・図書館学類2年の四家武彦である。本日は私がなぜ議長に立候補したのかを資料を使いながら訴えたいと思う。

まずは今日の話のアウトラインである。最初に自己紹介をする。その後全大会の現状分析、そしてそこから導き出された私の提案したい行動理念、そして3つの重要な軸について説明する。そしてその次に軸に基づいた重点策を説明する。その次に振り返りを行い、最後に全大会への思いや議長職に立候補するにあたっての決意を述べる。

まず自己紹介を行う。四家武彦、福島出身である。入学後はこの全大会をはじめとして、いろんな活動を行った。大学説明会や春日地区でのいろいろな活動を行った。こういった活動を通して、筑波大学のことに興味を持っている点もある。

では、今の全大会の現状分析を行う。パワーポイントを見てほしい。組織均衡論というものがある。一番上の全大会とかかかっている部分が、組織としての全大会である。その下に、大学、学生、そして一学生としての全大会員がある。この3者は、全大会という組織に対応する利害関係者、ステイクホルダーである。ステイクホルダーの役割は、例えば大学は予算を全大会につけたり、学生は理解・協力・権限の委任をしたり、そし

て私たち全代会員は時間や責任を負う、そういったことを資源として全代会という組織に提供している。全代会という組織はその資源をもとに、価値の創出と行う。例えば大学には、学生との窓口の役割を果たしたり、学生に対しては学校生活の改善であったり、一学生としての全代会員に対してはやりがいであったり、そういったものを創出している。たとえば、大学の予算がつかないことがあった場合、資源がなくなってしまう、価値の創出もできなくなってしまう。つまり、ひとつでもかけてしまえば、この組織は成り立たなくなってしまう。これは学生から伸びている矢印でも、全代会員から伸びている矢印でも同じことである。ここで、一つひとつの矢印が本当に動いているか見てみる。大学からの予算配分や学生生活課からの支援、これは確実に受けられている。また、学生との窓口の役目も果たしており、また大学の関係者と定期的なミーティングを開いており、両行な関係を築いている。ここは○といえる。学生が全代会を理解・協力・権限を委任してくれているか、は正直完璧ではないので△である。しかし「全代会だ」といえば協力してくれる学生が多いのは確かである。また、一学生としての全代会員、こちらは一部の全代会員に過度な負担がかかっていることは確かだが、全代会の最低限の運営は行われているので、△とする。つまり概ね、資源の提供は行われていると判断できる。こうなったときに全代会がさらに良くなるためにはどうすればよいか。悪いところをつぶして、さらによりよくなるためにはどうするか、を考えたときに、このあたりがキーになるのではないかと私は考える。価値の創出など、そういった部分が、私たちがよりよくしていかなければならない点である。つまり、上手な価値の創出が必要なのである。全代会でできた価値をうまく外部にアピールすることが必要である。これを鑑みたくて、行動理念、そして3つの軸を紹介する。

私は、「魅せる全代会」というものを行動理念として掲げたいと思う。そして、3つの軸、信頼・自主・結実、これを軸として捉えていきたいと思う。行動理念については後程説明するが、軸についてはこれから一つひとつ見ていきたいと思う。

まず、信頼である。信頼と交わる重点策、これはすきのない組織を作ることであると私は考える。つまりどういうことか、例えば今回、私も関与したが、出欠確認のメールが遅れてしまった。また、度重なる手違い、あるいはネットが発展した現状では、意図しない炎上など、こういったことが起こりかねない。こういったことが起こると、私たちと大学、私たちと学生、そして、私と、皆さん全代会員、その中で不信感であったり、火種であったり、あとは全代会という組織の程度の低さ、そういったものを露呈してしまうことになる。つまり、これを解決するためには、情報共有や、意思疎通、また特に議長団に関してだが活動の早期把握、そして迅速な初動対応が必要である。つまり、すきのない組織の狙いは、風通しがよく、信頼の厚い組織の構築である。

次に、自主についてである。私は、作業チーム構想を皆さんに提案したい。例えば全代会では学内の様々な問題を扱うが、問題が発生した際、従来は座長団の誰か、あるいは専門委員の誰かがその問題を一人で把握し、それを議案として提出する必要があった。

しかし、議案の提出というのは、かなりのハードルが高い。これによって、構想止まりになってしまう、議案までは到達しないで終わってしまうというケースが多かったのではないかと思う。これからは、このような混成のチームをつくり、この混成チームは座長団であったり専門委員であったり、議長団であったり、そういった必要なところから、やりたいと思う人たちが集まって、議案を検討し、そして本会議に議案を提出する、こういった体制が採られることが望ましいのではないかと思う。議案を提出して会議で審議するというのは、全大会の本懐であるとは私は思っている。作業チーム構想の狙いは、容易に議案を提出できる体制の構築である。

3つ目の結実である。これは、全員が輝く機会を創出するということを掲げたい。全大会に実際に入ってみると、想像とちがった、報われない、全大会の存在意義はなんなのか、そういったことにギャップとして直面する人も多いのではと思う。全大会の活動は私は実のあるものであると思っている。しかし、なぜ報われないのか、裏方、ここでは自分が嫌だと感じる活動のことだが、裏方活動に徹する会員が表方の活動もできるようにすればいいのではないかと考える。どんな活動にも、取り組んでいて楽しい面、辛い面がある。辛い面だけで終わらせるのはもったいない。だからこそ、表方の活動も皆さんに獲得してほしいと考える。つまり、尽力した全大会員、彼らの利益を内側からも発生させていく、そういった目論みがある。具体的には、例えば、様々な報告会がある。要望書の提出などを行い、また交流会などを行う。議長団が率先して、成化を形に残す、例えば、学長室や副学長室に行き、そこで要望書の紙を渡し、写真におさまる。そういった形のある実績作りに取り組みたい。そうすることによって、皆さんの報われなさが軽減されるのではないかと考える。また、広報委員会でも積極的に議論がなされているが、やはり全大会という言葉を知っていても、正直なにをやっている組織なのかかわからないという疑問をもつ学生も大勢いる。そういった学生が多いということは、全大会員にとっては報われない、一般学生を代表してきているのにも関わらず、そのような状況がおこるのはもったいないことである。なので、今広報委員会で検討されていることも含めて、広報活動に力を入れたいと思う。つまり全員の輝く機会の創出の狙いは、確実な成果の獲得体制を整える、そして、報われる感覚を創出することである。

説明を振り返る。最初に行動理念をあげた。その行動理念を支える形で、すきのない組織の信頼、作業チーム構想の自主、そして輝きを創出する結実、これが「魅せる全大会」につながる。頼もしい組織というのは魅力的に映る。また組織のなかで議論が活発に行われて、積極的に活動する組織も魅力がある。そして、やりがいがある、実績がある、そういった組織も魅力があると思う。

ここまで私が考える全大会の運営の仕方について説明した。ここからは私の全大会や議長職への決意を述べる。私は1年前に全大会員としてここに来た。総務委員会に配属されたが、全大会の活動を1年間続けていくなかで、面白いと思う面もあれば、大変、また面倒だと思う面もあった。しかし私が大切にしていたことは、最低限のことは責任

を持ってやり遂げるということである。私は全代会にはいるときに、やる気があってここに来た。しかし、必ずしもそうではない方もいる。私は個人的には、そういった方の気持ちも十分に分かる。ただ私は、そういった方々にも、全代会に興味はなかったが、来てみたら楽しかった、面倒なこともあったが実りもあった、そういった感想をもって1年間を終了できるようにしたいと考えている。

議長職に立候補するにあたっての決意は、やはり責任の重い役職であると思っているので、中途半端に議長職を務めるつもりはない。信任されることが目標ではなく、信任された後からがスタートであると考えている。責任をとることが、議長の大きな役目である。皆さんが考えがあって行動した結果であれば、もしそれが悪い結果だったとしても、私はその人を応援し、一緒に責任を取りたいと思う。皆さんは委員会などにとらわれずにやりたいことをやり、私を驚かせてほしいと思う。

以上だ。ところで私のことを保守的な人間で、言われたことだけをやる人間だと思っている人もいると思う。それを改善するにはどうすべきか考えてきた。それを最後にやらせてもらい、今回の立候補演説を終わらせたいと思う。歌います。「常陸野の」を歌います。

常陸野の 原野を拓き 真白なる 塔そびえたり  
混沌の 時代破りて 清新の 力生あれたり  
ああ我等が筑波大学

ありがとうございました。

#### 《質疑応答》

##### ○質問

学生や全代会員からの資源提供が△なのはなぜか。(障害1年 山本)

##### ●回答

学生に関しては、協力はあるが、周知が足りない。全代会員に関しては、活動への態度の二極化が激しく、作業の分担が出来ているとはいえない。会議の出席が少ない。

(知識2年 四家)

##### ○質問

座長団の活動に参加しない人への対応を具体的に教えてほしい。(日日1年 瀬邊)

##### ●回答

参加を強制することは難しいので、参加できないのであれば代理を出す、そもそもしっかり欠席の連絡をするといったことを徹底して対応したい。(知識2年 四家)

## ○質問

作業チームをつくるということだが、これは拘束時間が増えるということなのか。

(日日2年 松下)

## ●回答

拘束時間は増える。これはある問題が発生したときに、その問題に興味がある人が集まることでチームを結成する。報告会も数時間は拘束することになるかもしれない。しかしそれに見合った成果、実績を残すといったことを、負担が増えるということと天秤にかけて考えてほしい。(知識2年 四家)

## ○質問

作業チームについて。全代会は学類の代表者を集めた組織であるが、その特徴を一切使わずに、直接全代会員を集めるといった組織をつくろうとしているが、それは全代会のその性質を使わないでやろうという考えなのか。それとも従来の全代会の活動とは別で新たな活動をしようという考えなのか。(資源2年 十川)

## ●回答

全代会の活動とは別に活動をしたいという考えである。これは例えば春日地区の問題を全代会で扱うということではなく、全学的な問題を全代会のメンバーで扱い、最終的に議案として形にして提出することが目的である。形にして提出するということは座長団、専門委員、議長団の方がやりやすいのではないか。(知識2年 四家)

## ○質問

現在、大多数の人が縦の繋がりに関しては一切機能していないと考えているが、その改良は特に考えていないのか。(資源2年 十川)

## ●回答

クラス代表者会議とのつながりを意味のないものとは考えていない。クラス代表者会議から全代会へ議案が提出されれば、本会議で審議の対象になる。しかし、そういったものが少ない現状では、こういった取り組みも会議の意味としてはありだと考える。

(知識2年 四家)

## ○質問

確かに現在の状況では、クラ代の縦の繋がりを通して議案が上がってくることはほとんどなく個人的なつながりから意見が上がってくるが多いが、クラ代会が機能していない現状はどうしようと考えているのか。(比文2年 楊)

## ●回答

演説では全ての問題には触れなかったが、話さなかった問題をないがしろに考えているわけではない。今考えているのは、各クラス代表者会議がどのように行われているのか、私が視察に行こうと考えている。例えば春日地区ではクラス代表者会議はある程度成り立っているが、会議が行われていない、意味をなしていないところもある。それらの問題を確かめることが必要であると考え。(知識2年 四家)

## ○質問

作業チーム構想というのは今ある常設の委員会が機能していないために立ち上げようと考えていると思うが、なぜ委員会を活性化させるのではなく、こういった作業チーム構想を立ち上げようとするのか。(人文2年 竹下)

## ●回答

作業チーム構想には各委員会のメンバーが含まれる。チームで話し合った結果を各委員会に卸してもらい体制を整えたいと考えている。委員会の活動に加え、さらに総合的な問題に足を踏み入れることができる。(知識2年 四家)

## ○鈴見

投票に移る。Aは信任、Bは不信任、Cは保留、Dは使用しない。ABCのどれかに○を付けること。

## 《信任投票》

信任：46 不信任：3 保留：3 無効票：1

## ○鈴見

投票者50人、信任が46、不信任が3、保留が3で、四家は本年度の議長に決定した。

## ○四家

ことばで伝える段階でこれだけの被審人と保留が出てしまったことは重く受け止めている。実際の行動で、信任をした人が不信任・保留にならないよう、この1年間、職責を全うしたいと思う。

## ○鈴見

副議長選挙に移る。選出の手順は先ほどと同様である。

それでは平成 30 年度全代会副議長に立候補する方は挙手してほしい。

立候補を締め切る。挙手した社会学類菱沼と生物資源学類石川は前にでること。それでは石川は立候補演説を始めてください。

## ○石川

生物資源学類 3 年の石川貴嗣である。本日は平成 30 年度副議長として立候補させていただく。このなかには 3 年生の人はいないと思う。3 年まで私が残ることになった経緯を話そうと思う。

私は昨年度の副議長を務めていた。今年もう一回副議長に立候補した。やりたいことが 2 つある。簡単に説明すると、やり残したことがある、ということと、これから繋げる、ということである。

前者について説明する。私は副議長の間、特に昨年の秋学期に大学との交渉をいくつか行っていた。それは今も行っている。2 件あり、1 件は学園祭実行委員会に関すること、もう 1 件は、全代会と大学との関係性に関することである。学園祭についての方は既に 2 年生に引き継いでいるがもう 1 件の方については、まだ引き継いでいないので、今年度も交渉をしたいと考えている。

これからに関してであるが、全代会の議長団は、1 年目にかなり停滞する。なぜかという、全代会と大学、全代会をとりまく関係を知っていたとしても、一年生は 1 年でしかそれを知っていない。議長になると、新しい全代会と他の組織との関係のような話をどんどん聞かされ、初耳なことばかりで、動こうにも動けなくなるからである。私はそのサポートをしたい。私は 2 年間、全代会員として他の組織との関係性を見てきた。そのうえで、四家がやりたいことをサポートしていくために副議長として情報を提供したいと思っている。以上。

## ○鈴見

菱沼さん、よろしく願います。

## ○菱沼

社会学類 2 年の菱沼香織である。副議長に立候補する。まず私が副議長に立候補した動機を説明する。同期としては、一言でいうと、全代会をもっと親しみやすいものにしたという思いで立候補した。全代会という名前だけで堅苦しいイメージ、名前の段階で人を選ぶような組織になってしまっていると思うので、そこを何とか打破したい。分かりやすく言うと、全代会の構成員と議長団の距離を縮めたいということである。一構成員の立場から、議長に意見を申すというのは、ハードルが高いと思われる。もう一人

の立候補者も3年生で、特に1年生だと心理的な距離があると思う。私は2年生で、構成員との年次的に近い存在であるので、より近い距離でいろいろなことができると思う。

まとめると、私は議長団と構成員の架け橋になりたいと思っている。そもそも学則上では、議長団というのは全大会の統括をするということになっている。しかし私の考えでは、構成員と議長団というのは実質全大会として動くにあたってはフラットな関係である。ただそれは構成員の方がそういったように努力をしても、上に立つ私たちがそれを推進していかなければどうにもならないと思うので、それを私から率先してやっていきたいと考えている。

また、私も副議長に選出されたら、副議長である前に全大会の構成員の一員である。それを私も忘れないし、皆さんにも忘れてほしくない。私が忘れないというのは、副議長といった学則上の役職に甘んじるのではなく、常に構成員と同じ視点に立って業務をするということである。また皆さんに忘れてほしくないというのは、副議長だからといっていいことを言えないということがないようにしたいということである。副議長という立場上、議長である四家のサポートは全力でしていきたいと思っている。基本的なサポートはもちろん、責任感が強くまじめな方なので、役職的に近い立場にある私たちが気にかけて、自分で抱え込まないよう、大変さを共有したいと思っている。

繰り返すが、私はあくまでも構成員目線に立って、専門委員を含めた構成員と緊密な関係を持って仕事ができたらと思う。

## 《質疑応答》

### ○質問

石川さんに質問。石川さんが副議長になる場合、議長よりも学年が上の副議長が生まれることになるが、副議長の意見が議長に精神的な影響を及ぼすことになると思う。そのために密接な連携が通常よりとりにくいのではないか。その対策はあるか。

(数学2年 五十嵐)

### ●回答

今の社会的に完全に克服することは難しい。しかし、私の考えが四家の考えになる事態は確かに危惧される。私は、なにかするときには先に四家に意見を言わせるというのが正しいと思う。最初に概案、何をするかの手引きまで四家に言わせ、そして私はその行動をとる。そして予定外の事態等を報告し、そこで初めて私のアドバイスがでる。そうすることで問題は防げると考える。(資源3年 石川)

## ○質問

石川さんに質問。これからのこととして、議長団のサポートと情報提供を挙げられたが、これに関しては学年が上という立場を生かせば、副議長でなくともできることではないか。副議長でなければできないことはあるか。(日日1年 瀬邊)

## ●回答

副議長でなければできないことがあるというよりは、副議長になるしか方法がないということである。現状、議長団には横から支える組織がない。各委員会は議長団とは独立しているものであり、全代会との関係として行う対外的な話は議長団しかできないということになっている。これが1つ目の理由である。2つ目の理由は、議長団であった方がよい理由として、これまで大学の各組織と作ってきた関係性が既にできているが、例年だとこれらを一回ご破算にするわけだが、それがスムーズな議長団の立ち上がりにつながるということが問題視される。私が議長団に入ることによってその点をサポートし、入ってきた情報に対して即座にレスポンスできるような体制を整えることができるという点で、私は副議長になりたい、またなった方がよいと考える。(資源3年 石川)

## ○質問

菱沼さんに質問。議長団と構成員の距離を縮めるということだが、これは内向的なことかと思う。副議長として、外交的な、他の学生に対してできることはあるか。

## ●回答

外交的なものとしては、広報のサポートをしたい。副議長は議長のサポートをする役職であるから、事務的な仕事を議長の代わりに受け持ってサポートとしたい。

(社会2年 菱沼)

## ○質問

菱沼さんに質問。構成員と議長との懸け橋になりたいということだが、議長でなくてもできるような、対外的に情報を発信することをしたいということだが、具体的には何をするつもりなのか。(化学1年 三浦)

## ●回答

具体的なことについては今は形になっていない。漠然とした考えでは、全代会のSNS等を通じた広報アカウントを、私は運営には加われないが、それで発信する内容に意見を加えたりということをしたい。広報については広報委員会という専門の委員会がある以上、私個人の広報行為というのは必然的に限定されてしまうのでやるとしたら、広報アカウントに対する意見などになる。(社会2年 菱沼)

## ○質問

2人に質問。作業チーム構想についてどのような考えをもっているか。(日2年 松下)

## ●回答

作業チーム構想は、私個人としては非常にいい考えであると思う。全大会のなかの境界関係なく、一つの目標に向かって作業ができるということで、いい考えだと思っている。しかし、作業チームに対していろいろな意見があると思うので、それらの意見を私の方でまとめ、それを議長に出すことでさらに作業チームの発展に役立てたい。

(社会2年 菱沼)

## ●回答

作業チーム構想に似たシステムは全大会に既にある。特別委員会がそれである。常設の委員会に含まれない特別な委員会であり、ひとつの委員会では扱いきれない大きな問題を扱うために全大会が設置する。そこは完全に有志であつまり、専門委員も含めて委員会の垣根を越えて活動するものである。では作業チーム構想と特別委員会が何が違うのかというと、特別委員会は作るのがとてもめんどくさい。特別委員会は全大会の承認を得たうえで大学にそれを提出しなければならない。それは初動が遅い。ある程度ものが固まってからでないと動き出せない。これが特別委員会のデメリットである。作業チーム構想の場合は、気になったらすぐに動き出せるというのが特別委員会との違いである。特別委員会は実際に私もつくっているが、作業チーム構想には私も賛成である。会議の場で作業チームを募ったりするかもしれない。(資源3年 石川)

## ○鈴見

投票に移る。2人投票があるが、先に石川の方から投票する。先と同じように、Aは信任、Bは不信任、Cは保留、Dは使用しない。開票は2人の投票が終わった後である。

議事次第には委員会説明会があったが、割愛する。投票が全部終わったのち委員会報告を行い、その後写真撮影を行う。

## 《信任投票 (石川)》

信任：43 不信任：4 保留：3 無効票：0

## 《信任投票 (菱沼)》

信任：41 不信任：5 保留：3 無効票：0

○鈴見

前にでて一言ずつお願いする。

○石川

不信任の人、保留の人がいるが、全ての人と意見が合うことは不可能だと思っている。ただそれでも意見をできる限り合わせ、統一した見解を持って業務をしていくことは大切であるし、それをしていきたいと思っている。

○菱沼

投票結果を見れば分かると思うが、私の考えの浅さが露見した結果だと真摯に受け止め、しかし信任して頂いた事実が変わりはないので、これからの業務でお返しできるように頑張りたい。

○鈴見

議長の四家と、副議長の石川、菱沼の3人で、平成30年度1年間頑張っていくと思う。拍手。

委員会説明会は割愛する。その他諸連絡。毎回の会議の最後に各委員長から進捗報告をやってもらう。

《委員会報告》

○議長団：

会議の準備を総務にやってもらったり、資料を作ったりした。入学式などで全代会の説明を終えた。

○総務委員会：

今年度の名簿とネームプレートの作成、会議の準備を行った。

○学内行事委員会：

実行計画書の日程のやりとりを行った。新歓の予算案・実行計画書の審議を行った。学実意からマスコットキャラクターの応募に関する書類が来たので、赤入れを行った。

○教育環境委員会：

前回からほとんど活動しなかった。新委員長に竹下が就任したので報告する。  
竹下：去年に増して頑張りたい。以上。

○生活環境委員会：

昨年度末は活動しておらず、前年から持ち越している給水機の設置に関するアンケートを今年度やっていきたい。今調査委員会に案件が来ているので、その調査の結果を受けて動くことになると思う。

○調査委員会：

新歓のやりがいに関する調査依頼を受けて準備をしている。

○広報委員会：

キャンパス第 215 号を発行したあと、やど祭号を作っている。広報委員に内定した人と、広報員会を第一希望にしている人は明日 18 時から委員会があるので来てほしい。

○新歓特別委員会：

新特の業務は一通り終了しつつある。紫峰会基金から援助金が出れば終わりである。

○学実委に関する特別委員会：

学実委に関する全代会の業務を軽減しようという委員会である。春休み中に学実委に関する申し合わせ等の学則の変更案を作った。これをこれから学生生活課と協議してこれからの動きを決めていきたいと思っている。

《その他所連絡》

○総務委員会：

ネームプレートもしくは名簿に名前間違いがあった方は後程教えてほしい。

○広報委員会：

広報委員会は全代会室で行うが、中央図書館前に集まってくれば案内する。18 時半に図書館前に集合すること。広報委員会のアカウントの中の人だが、フォローしてリツイートしてほしい。

○学内行事委員会：

明日ミーティングの予定があるので、興味がある人と内定した方はぜひ来てほしい。集合場所は広報委員会と同じく中央図書館、18 時半集合。

18101

○鈴見

それでは写真撮影を行う。

○石原

昨年度広報委員会制作部長をしていた地球学類4年の石原である。

○太田

去年総務委員長だった太田である。

○石原

本日で昨年度の議長団が活動を終了したので、活動をねぎらうということで花束を贈呈する。

(花束贈呈)

○鈴見

写真をとる。

(写真撮影)

以上